



















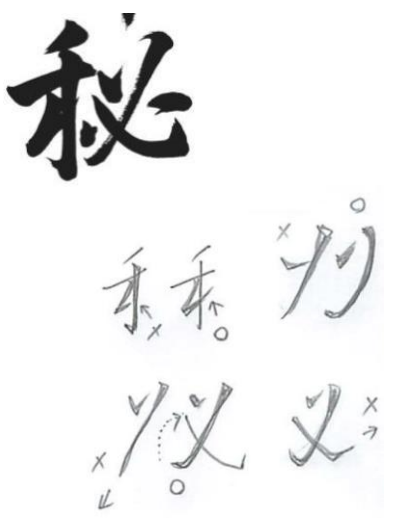




審査を終えて（中学校の部）

平成29年3月24日 本部書写委員会

学年	誦	審査員からのコメント	
中学校 一年	永	永 久 平 和	<p>① 3～4画の呼応と五画の変化</p> <p>△ 2画目の左払いの先が斜め下に向かっ ていて、4画目に連続していかないも のが多くありました。左払いの先を完 全に抜かずに上に向かって少しはね上 げるとよいです。</p> <p>△ 5画目の右払いが楷書の払いのよう にしっかりと押し出しているものが多 くありました。また、払い出しの部分 の長さが短すぎるものもありました。 行書の特徴を習得するねらいからも、 払い出しの部分は穂先をまとめながら、 軽くとめ、左下へ折り返すつもりで筆 を動かすとよいです。</p>
	久		<p>② 1～2画の連続と2～3画の呼応</p> <p>○ 1～2画目の連続はよくできていま した。一部の作品で、戻す用筆がうまく いかず、一度離して左払いを書いてい るものがありました。</p> <p>△ 2～3画目の呼応については「永」の 字の3画目の左払いと共通の傾向があ りました。2～3画目の呼応について は、2画目を払った後、筆先を硯で直 したりせずに、一気に3画目に入ります。 3画目は、右払いでなく長目の点 （れんがの最終画のような点）になる ように書くとよいです。</p>
	平		<p>③ 2～3画の呼応と3～4画の連続感</p> <p>○ 2～3画の呼応は、よくできていま した。片仮名の「ソ」を連続させる感 じで書くとよいです。</p> <p>・ 3～4画の連続については3画目を払 った後、筆先を硯で直したりせずに、 一気に4画目を書くようにするとよい です。</p>
	和		<p>④ 4～5画の省略と7～8画の連続</p> <p>○ 4～5画の省略はほぼできていま したが、5画目を口に向かって払うところ が「止め」になっている作品が多くあ りました。片仮名の「レ」を斜めに書 く感じで書くとよいです。</p> <p>△ 7～8画の連続で、最終画を書く前 に一度筆を離して、片仮名の「マ」の ように書いた作品が多くありました。数 字の「12」を下すばかりに書く感 じで書くとよいです。</p>
			 <p>△ 左払いが 斜め下へ まっすぐ</p> <p>○ 左払いが 大きく円を描き 次の画へ</p>
			 <p>○ 3画目はよい</p> <p>△ 2画目と3画目の呼応は もう一つ</p>
			 <p>○ 2～3画目の呼応はよい</p> <p>△ 3画目を払った先に4画目の始筆 がない（つながりがない）</p>
			 <p>△ 5画目の終筆は 止めずに払う</p> <p>△ 7～8画目を「マ」 のように書かない</p>

学年	語句	審査員からのコメント	
中学校 二年	温 故 知 新	温	<p>① 2～3画の連続と「皿」の縦画の連続感 ○ 2～3画の連続は全体的によくできていました。もともとは二つの画が連続しているという意識をもち、2画目の始筆があまり細くなりすぎないように筆圧をかけて書くとよいです。 ・ 「皿」の縦画は、連続する「り」のような筆の動きが自然に線に表れるとよいと思います。また、縦画が等間隔で下をやや狭くすると形が整います。</p>   <p>△ 次の画へのつながりが見られない</p>   <p>○ 次の画へのつながりがある △ 縦画が等間隔でない</p>
	温 故 知 新	古	<p>② 4～5画の連続と8～9画の呼応 ○ 4～5画は筆を離さず続けて書きます。 ・ 8画目は左斜め下にまっすぐ払うのではなく、丸みをおびてやや上に向かって払い、「α」のように大きく円を描く動きで9画目の始筆に入ります。穂先が次の画に向かっていく動きを練習するとよいです。書いた後8～9画が自然につながるかどうかを、点線を記入して確認するとよいです。</p>   <p>△ 楷書のように書いている</p>   <p>○ 8～9画が点線につながる △ 9画目へつながらない</p>
	温 故 知 新	知	<p>③ 2～3画の連続感と4～5画の呼応 △ 2～3画へのつながりが見られない作品が多かったです。 ・ 4画目の払いの方向は5画目へ自然につながるよう、「α」のように大きく円を描くつもりで筆を動かすとよいです。5画目の位置が下がりすぎると、バランスが悪くなります。また「口」の最終画はカタカナの「マ」のように下がりすぎるのではなく、数字の「2」を書くような感じで横に引くと字形が整います。</p>   <p>△ 4～5画がつながらない</p>   <p>○ 「2」のように最終画を横にひく △ 「マ」のように斜めになっている</p>
	温 故 知 新	新	<p>④ 8～9画の省略と10～12画の連続 △ 8～9画を一筆で書きます。作りの上部に向かってはねるように書くとさらによくなります。 △ 10～11画については、10画目の終筆が11画目の始筆と違う方向へ行ったり、1画目の始筆が楷書のようにしっかり入っていたりして、つながりのない作品が多くありました。10～12画を一気に書くとよいです。また、12画を右から左に書いているものがありました。筆順や筆の動きを確認しましょう。</p>    <p>△ 10～11画がつながらない ○ 10～11画につながりがある</p>

学年	語句	審査員からのコメント	
中学校 三年	神 秘 探 究	神	<p>①「神」の筆順・形の変化と「へん」から「つくり」への連続感</p> <p>△1画目の位置が左に寄りすぎたり、2画目にくっつきすぎたりしているものがありました。</p> <p>△「へん」から「つくり」へとつながるように書くのは難しかったようで、3画目のはねが「つくり」の1画目の方向とは違っているものや、はねすぎているものがありました。</p> <p>・つくりの4画目は1画目より下がらないように書いてください（接し方）。</p> 
神 秘 探 究	神 秘 探 究	秘	<p>②4～5画の省略と「必」の点画の連続感</p> <p>○「のぎへん」の形はよく書けていました。</p> <p>△5画目が省略されています。4画目は3画目の縦画を越えてはね、「つくり」につながるように書いてください。</p> <p>△「必」の部分に次の画へのつながりが見えないもの、はねてあっても次の画の方向とは異なる方向にはねているものがありました。連続性が分かるように書いてください。</p> <p>○「必」の筆順間違いはほとんどありませんでした。紙面に収めるのが難しかったようですが、バランスよく書こうしていることがうかがえました。</p> 
神 秘 探 究	神 秘 探 究	探	<p>③6～7画の変化と9～11画の点画の連続感</p> <p>△「てへん」の筆順が間違っているものがありました。</p> <p>・6～7画目の変化が観点です。6画目は左側に斜めに入り、いったん止まってから右側の7画目に向かってください。7画目は8画目に向かって左下方向にはねてください。止まっているものがありました。</p> <p>○9～11画の連続は割とできていました。次の画へ向かうように方向を見定めてからはねるようにしてください。</p> 
神 秘 探 究	神 秘 探 究	究	<p>④1～3画の連続感と6～7画の連続感</p> <p>△1～3画に動きが見られないものがありました。次の画の方向へ曲線的に向かうように書くとよいでしょう。</p> <p>・6～7画の連続は、とても難しかったようです。つながらなくても気脈が見えるように書いてください。</p> <p>・2画目をはらってしまうと誤字になります。気をつけてください。</p> 

⑤全体のまとめり・筆勢について

○初めて行書に取り組む生徒がほとんどであり、慎重に書いているものが多かったです。書き方のポイントが理解できたら、一字一筆でグイグイ書いていくとよいです。

(1年)

○名前の位置が下にさがりすぎないようにします。「久」の字の一画目を折り返すあたりから「和」ののぎへんの二画目のあたりまでの間に、大きく堂々と書くとよいです。

(1年)

○連綿線(次の画へつながる線)はあるけれど、楷書のようにかたい感じの作品が見受けられました。行書らしい筆の動きができるまで練習を積んでほしいと思います。筆順の確認をして、どの画からどの画へどのように動くのか理解した上で書くと、自然に気脈が通り、連続間や点画の呼応が表されると思います。

(2年)

○中心がずれているものが見られました。紙をしっかりと折り、中心線を意識して書くとよいでしょう。

(3年)

<全体を通して>

- ・一画一画が止まって見えるものがありました。一文字の中で筆の動きが見えるように連続して書いてください。
- ・書き初め用の大筆でなく、普通の半紙四字書きの筆でも書けますが、線が細い作品の割合が多い学校がありました。半紙用の筆であれば根本まで下ろすなど、筆の手入れを確認し、適度な線の太さで書けるようにお願いします。
- ・氏名について、コンピュータの行書フォントを手本にして書いたため、字形だけまねしていて、筆順や点画の形がおかしくなっている作品がありました。一人一人の氏名を行書で書いて示すことは大変ですが、コンピュータの印字と合わせて、教科書巻末の硬筆の行書一覧とも比較したり、実際に生徒が書いたものを確認したりして、行書としての誤字を防ぐようお願いします。
- ・敷き写しや、爪などで書いた線をなぞっている(骨書き)作品が多くありました。練習ではともかく、清書でそれをしないでほしいと思います。

*「新」の横画で、長く書く画が違うのではないかという問い合わせがありました。手書き文字には様々な書き方があり、書道五体字典などを調べると様々な字例があります。また、常用漢字表の「『(付)字体についての解説』 第2 明朝体と筆写の楷書との関係について 2 筆写の楷書では、いろいろな書き方があるもの (1) 長短に関する例」では、許容の例が示されています。平成28年2月29日文化審議会国語分科会報告の「常用漢字表の字体・字形に関する指針」(三省堂)でも、p103 や p157、p205 などに詳しく解説されています。漢字や書写の指導をする先生は是非ご一読いただければと思います。